亜細亜大学 FDグループ

手話表現研究会（半期に1回程度）

2006年度から行われている聴覚障害学生支援の取り組みです。

ろう学生が在籍している学部の教員の講義の中で、よく使われている専門用語を10個取り上げて、教員がその意味を説明します。

手話通訳者にとって通訳しやすいか、ろう学生にとって手話を見て意味を理解しやすいか、また、教員は手話表現と専門用語の意味が同じであるかを確認し合いながら、最終的に一つの専門用語の手話表現を決めていきます。

教員・手話通訳者・ろう学生で話し合っています。

以前は
通訳者は自分の話を全て手話通訳できていると思い込んでいた。
通訳されている内容がろう学生にしっかりと伝わっているか不安だった。

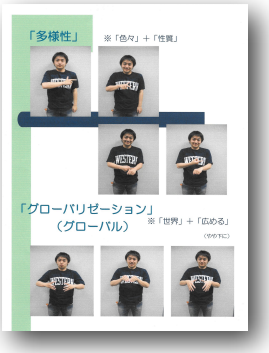
現在は
手話通訳者も努力して勉強をしていることが分かった。
資料や教科書などを手話通訳者のために前もって渡すことの意味が分かった。
通訳しやすいように講義で話すスピードをゆっくりにするようになった。

以前は
聞いたことが無い専門用語をどうやって表現すればいいのか分からなかった。
専門用語の手話表現があいまいで、ろう学生に伝わっているか不安だった。

現在は
専門用語の意味を分かった上で、伝わる手話表現ができるようになった。
教員に専門用語の意味を確認しやすい関係を作ることが出来た。

手話表現と専門用語の意味が同じかどうか確認し合っています。

教員 → 手話通訳 → ろう学生



みんなで話し合って決めた手話はこのようにプリントになります。

以前は
手話通訳者の手話が分からないことがあった。
講義や自学だけでは理解出来ているのか不安なことが多くあった。

現在は
手話通訳者が通訳するために、自学自習していることがわかった。
教員と手話通訳者との距離を縮めることが出来た。

専門用語の手話表現を決めるだけではなく、
教員・手話通訳者・ろう学生が一つの場所に集まり
お互いの関係を深めるきっかけになりました。

亜細亜大学の特徴ある取り組み

- **全学共通科目「手話入門Ⅰ・Ⅱ」**
  学外のろう者と一緒に、手話だけではなくろう文化やろう者への理解を広げることが出来ます。
- **全学共通科目「ボランティア・ワーク」**
  ノートテイク、PCテイクなどを45時間程度行って、レポート作成と面接で1単位取ることが出来ます。
- **生涯学習課「手話基礎講座」**
  主にろう者の文化や生活について学んでいます。社会で活躍しているろう者の講演会も行われています。

- **ノートテイク講習会（半期に3回）**
- **ノートテイク反省会（半期に1回）**
- **手話通訳者との意見交換会**
  大学・手話通訳者・ろう学生で半期に1回反省を行っています。
- **パソコンテイク講習会**
- **パソコンテイク自習会**
  来年度から本格的に活動を始める予定で、現在は有志を集めて試験的に開催しています。

お問い合わせ先： 亜細亜大学 教学センター 教学課　Email: kyogaku@asia-u.ac.jp